

(19) Japanese Patent Office
(12) Official Gazette (A)
(11) Publication Number: Hei 9-179859
(43) Date of Publication: July 11, 1997
(51) Int. Cl. G06F 17/22
Request for Examination: Not yet submitted
Number of Claims: 19 (16 pages)

(21) Application Number: H7-338561
(22) Date of Filing: December 12, 1995
(71) Applicant: 390024350
Just Syst Corp
[Translation of Address Omitted]
(72) Inventors: Amochi HIROKI
[Translation of Address Omitted]
(74) Representative: Patent Attorney Hideo FURUTANI

(54) 【Title】 Device and Method for Character String Conversion

[Page 2 col.1 line 1 – 10]

【Claim 1】 A device for character string conversion comprising
an input means for inputting a character string;
a conversion means for converting an character string input with the
input means into a converted character string according to a predetermined
conversion mode, and giving it out to a character string processing device;
wherein a plurality of conversion modes for the conversion means are
provided; and
the conversion modes of the conversion means are selected in
accordance with a condition of the character string conversion device into
which the converted character string has been given.

[Page 7 col. 11, line 25 – 32]

【0063】 On the other hand, several conversion modes are stored in a
conversion mode file 25 on a hard-disk 32, each of them labeled with a
conversion mode name. Here, the conversion mode “medical thesis paper”
is stored with the content shown in Fig. 9, and the conversion mode “patent

thesis paper” is stored with the content shown in Fig. 11. The setting content of “medical thesis paper” in Fig. 9 has been set beforehand by the user as the conversion mode suitable for medical thesis papers

[Page 9 col. 15, line 20 – 24]

【0084】 The registration of conversion modes corresponding to texts is performed by the user. For example, it is possible to store, as the conversion mode for a certain text, the conversion mode used when storing the text on the hard disk. By doing so, the same conversion mode is used when opening the same text at subsequent times.

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号 —

特開平9-179859

(43) 公開日 平成9年(1997)7月11日

(51) Int. Cl. ⁶

識別記号

室内整理番号

F I

技術表示箇所

G 0 6 F 17/22

G 0 6 F 15/20

5 1 2 D

5 2 0 G

審査請求 未請求 請求項の数 19 O.L.

(全 16 頁)

(21)出願番号 特願平7-338561

(22) 出願日 平成7年(1995)12月26日

(71)出願人 390024350

株式会社ジャストシステム

徳島県徳島市沖浜東3-46

(72)發明者 阿望 博喜

徳島県沖浜東3丁目46番地 株式会社ジャ
ストシステム内

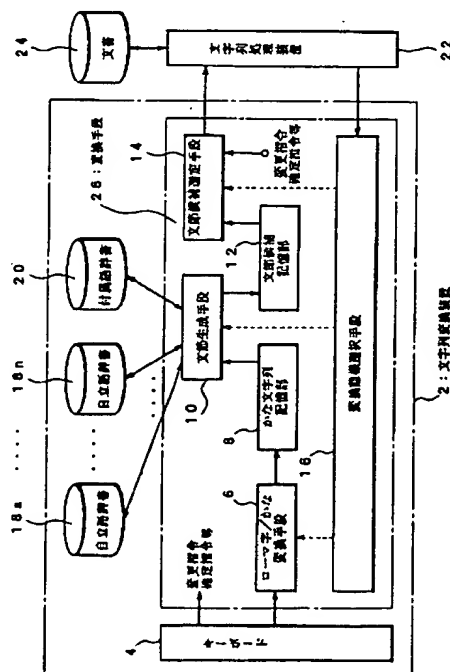
(74)代理人 弁理士 古谷 栄男 (外3名)

(54) 【発明の名称】 文字列変換装置および文字列変換方法

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 状況に応じて、自動的に変換態様を切り換えることのできる文字列変換装置および方法を提供する。

【解決手段】変換処理において、変換態様選択手段１６は文字列処理装置２２が処理対象としている文書２４中に予め記憶されている変換態様を文字列処理装置２２を介して取得する。文書２４に記憶されている変換態様は、文書２４に入力される変換文字列に鑑みて、効率のよい変換を行うことのできる変換態様となっている。変換態様選択手段１６は取得した変換態様にしたがってローマ字／かな変換手段６、文節生成手段１０、文節候補選定手段１４等に対して指示を与える。これにより、文字列変換装置２は自動的に効率のよい変換態様に変更して変換処理を行う。



【特許請求の範囲】

【請求項1】文字列を入力するための入力手段と、
入力手段から入力された文字列を、所定の変換態様にした
がって変換文字列に変換して、文字列処理装置に与え
る変換手段と、
を備えた文字列変換装置において、
変換手段の変換態様を複数設けるとともに、
変換文字列を与える文字列処理装置に関する状況に基づ
いて、変換手段の変換態様を選択するようにしたことを
特徴とする文字列変換装置。

【請求項2】請求項1の文字列変換装置において、
変換手段は、変換文字列を与える文字列処理装置に対応
して、変換態様を選択するものであることを特徴とする
もの。

【請求項3】請求項1の文字列変換装置において、
変換手段は、変換文字列を与える文書に対応して、変換
態様を選択するものであることを特徴とするもの。

【請求項4】請求項1の文字列変換装置において、
変換手段は、変換文字列を与える文書中の位置に対応し
て、変換態様を選択するものであることを特徴とするも
の。

【請求項5】請求項1、2、3または4の文字列変換装
置において、
文字列処理装置に関する状況に基づいて選択される変換
態様を、当該状況に対応付けて記憶しておくとともに、
変換手段は、状況に対応して記憶された変換態様にした
がって変換を行うようにしたことを特徴とするもの。

【請求項6】請求項5の文字列変換装置において、
文字列処理装置、文書又は位置に対応付けて変換態様を
予め記憶しておくとともに、変換手段は、記憶された変
換態様にしたがって変換を行うようにしたことを特徴と
するもの。

【請求項7】請求項6の文字列変換装置において、
変換態様は、それぞれの文字列処理装置又は文書に記憶
されていることを特徴とするもの。

【請求項8】請求項6の文字列変換装置において、
変換態様は、文字列処理装置、文書又は位置に対応付け
たテーブルとして、文字列変換装置に記憶されているこ
とを特徴とするもの。

【請求項9】請求項6の文字列変換装置において、
変換態様は、変換態様名が付されて文字列変換装置に記
憶されており、文字列処理装置または文書に変換態様名
が記憶されていることを特徴とするもの。

【請求項10】請求項1、2、3または4の文字列変換
装置において、
文字列処理装置に関する状況を、既に当該文字列処理装
置に与えた変換文字列に基づいて推論する状況推論手段
を設けたことを特徴とするもの。

【請求項11】文字列および変換態様選択信号を入力す
るための入力手段と、

入力手段から入力された変換態様選択信号によって決定
される変換態様にしたがって、入力手段から入力された
文字列を変換文字列に変換して文字列処理装置に出力す
る変換手段と、

を備えた文字列変換装置において、
前記変換手段は、前記文字列処理装置から与えられた変
換態様選択信号によっても、その変換態様を変更するこ
とを特徴とするもの。

【請求項12】与えられた文字列を、所定の変換態様
にしたがって変換文字列に変換して出力する文字列変換装
置と、

文字列変換装置からの変換文字列を受けて、当該変換文
字列に関する所定の処理を行う文字列処理装置と、
を備えた文字列処理システムにおいて、
文字列変換装置の変換態様を複数設けるとともに、
文字列処理装置は、文字列処理装置側の状況に基づい
て、文字列変換装置の変換態様を選択するための変換態
様選択信号を出力し、

文字列変換装置は、文字列処理装置からの変換態様選択
信号にしたがって、変換態様を選択するものであること
を特徴とするもの。

【請求項13】与えられた文字列を、所定の変換態様
にしたがって変換文字列に変換して出力する文字列変換装
置と、

文字列変換装置からの変換文字列を受けて、当該変換文
字列に関する所定の処理を行う文字列処理装置と、
を備えた文字列処理システムにおいて、
文字列変換装置の変換態様を複数設けるとともに、
文字列処理装置は、文字列処理装置側の状況を状況情報
として文字列変換装置に出力し、
文字列変換装置は、文字列処理装置からの状況情報に基
づいて、変換態様を選択するものであることを特徴とす
るもの。

【請求項14】請求項1ないし請求項13の何れかの文
字列変換装置または文字列処理システムにおいて、
文字列変換装置は、変換のために使用する辞書を変更す
ることによって変換態様を変更するものであることを特
徴とするもの。

【請求項15】請求項14の文字列変換装置または文字
列処理システムにおいて、

文字列変換装置は、変換のために使用する辞書を複数個
指定しておき、各辞書の使用時における優先順位を変更
することによって、変換のために使用する辞書を実質的
に変更するものであることを特徴とするもの。

【請求項16】請求項1ないし請求項13の何れかの文
字列変換装置または文字列処理システムにおいて、
文字列変換装置は、変換アルゴリズムを変更することに
よって、変換態様を変更するものであることを特徴とす
るもの。

【請求項17】入力手段から入力された文字列を、所定

の変換態様にしたがって変換文字列に変換して、文字列処理装置に与える文字列変換方法において、前記変換態様を複数設けるとともに、文字列処理装置に関する状況に基づいて、変換手段の変換態様を選択するようにしたことを特徴とする文字列変換方法。

【請求項18】入力手段から入力された文字列を、所定の変換態様にしたがって変換文字列に変換して、文字列処理装置に与える文字列変換方法において、前記変換態様を複数設け、入力手段から入力された変換態様選択信号によって、当該変換態様を選択するようにするとともに、前記文字列処理装置から与えられた変換態様選択信号によっても、変換態様を選択するようにしたことを特徴とするもの。

【請求項19】コンピュータが実行可能なプログラムを記憶したコンピュータ可読の記憶媒体であって、前記プログラムは、請求項1ないし請求項18の何れかのシステム、装置または方法をコンピュータを用いて実現するためのものであることを特徴とするもの。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は文字列変換に関し、特にその文字列変換の変換態様の自動切換に関するものである。

【0002】

【従来の技術】与えられたかな文字列を、漢字を含む文字列に変換する装置（かな漢字変換装置）が実用化されている。このかな漢字変換装置は、キーボード等から入力されたかな文字列（ローマ字文字列）を、辞書を参照しつつ、所定のアルゴリズムにしたがって漢字まじりの文字列に変換するものである。キーボードから直接的に漢字を入力することは困難であるため、かな漢字変換装置は、日本語を扱う種々の文字列処理装置（日本語ワードプロセッサ、表計算システム、特定の業務アプリケーション等）において、文字列入力のために用いられている。

【0003】一般に、文字列処理装置ごとに、入力すべき日本語の傾向が異なる。たとえば、住所管理用のアプリケーションにおいては「住所」や「氏名」等が多く入力され、経理用のアプリケーションにおいては「仕訳科目」等が多く入力される。したがって、効率的な変換を実現するため、アプリケーションに応じて、ユーザが辞書を切り換えて使用するようにしていた。上記の例で言えば、住所管理用のアプリケーションに対しては住所用辞書を用いるように、経理用のアプリケーションに対しては経理用辞書を用いるように、ユーザが設定変更を行っていた。

【0004】また、アプリケーションが同じであっても、扱う文書の内容や種類によって、入力すべき日本語の傾向が異なる。たとえば、医学論文を作成する場合と

法律論文を作成する場合とでは、同じ日本語ワードプロセッサを用いる場合であっても、入力すべき日本語の傾向が異なる。このような場合にも、ユーザが使用する辞書の設定を変更して、効率的な変換を行えるようにしていた。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記のような従来のシステムでは、状況に応じてユーザが文字列変換装置の設定を変更しなければならず、操作が煩雑であった。

【0006】この発明は、上記のような問題点を解決して、状況に応じて、自動的に変換態様を切り換えることのできる文字列変換装置および方法を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】請求項1の文字列変換装置は、変換手段の変換態様を複数設けるとともに、変換文字列を与える文字列処理装置に関する状況に基づいて、変換手段の変換態様を選択するようにしたことを特徴としている。

【0008】請求項2の文字列変換装置は、変換手段が、変換文字列を与える文字列処理装置に対応して、変換態様を選択するものであることを特徴としている。

【0009】請求項3の文字列変換装置は、変換手段が、変換文字列を与える文書に対応して、変換態様を選択するものであることを特徴としている。

【0010】請求項4の文字列変換装置は、変換手段が、変換文字列を与える文書中の位置に対応して、変換態様を選択するものであることを特徴としている。

【0011】請求項5の文字列変換装置は、文字列処理装置に関する状況に基づいて選択される変換態様を、当該状況に対応付けて記憶しておくとともに、変換手段が、状況に対応して記憶された変換態様にしたがって変換を行うようにしたことを特徴としている。

【0012】請求項6の文字列変換装置は、文字列処理装置、文書又は文書中の位置に対応付けて変換態様を予め記憶しておくとともに、変換手段が、記憶された変換態様にしたがって変換を行うようにしたことを特徴としている。

【0013】請求項7の文字列変換装置は、変換態様が、それぞれの文字列処理装置又は文書に記憶されていることを特徴としている。

【0014】請求項8の文字列変換装置は、変換態様が、文字列処理装置、文書又は文書中の位置に対応付けたテーブルとして、文字列変換装置に記憶されていることを特徴としている。

【0015】請求項9の文字列変換装置は、変換態様に変換態様名が付されて文字列変換装置に記憶されており、文字列処理装置または文書に変換態様名が記憶されていることを特徴としている。

【0016】請求項10の文字列変換装置は、文字列処理装置に関する状況を、既に当該文字列処理装置に与えられた変換文字列に基づいて推論する状況推論手段を設けたことを特徴としている。

【0017】請求項11の文字列変換装置は、変換手段が、前記文字列処理装置から与えられた変換態様選択信号によっても、その変換態様を変更することを特徴としている。

【0018】請求項12の文字列処理システムは、文字列変換装置の変換態様を複数設けるとともに、文字列処理装置が、文字列処理装置側の状況に基づいて、文字列変換装置の変換態様を選択するための変換態様選択信号を出力し、文字列変換装置は、文字列処理装置からの変換態様選択信号にしたがって、変換態様を選択するものであることを特徴としている。

【0019】請求項13の文字列処理システムは、文字列変換装置の変換態様を複数設けるとともに、文字列処理装置が、文字列処理装置側の状況を状況情報として文字列変換装置に出力し、文字列変換装置は、文字列処理装置からの状況情報に基づいて、変換態様を選択するものであることを特徴としている。

【0020】請求項14の文字列変換装置または文字列処理システムは、文字列変換装置が、変換のために使用する辞書を変更することによって変換態様を変更するものであることを特徴としている。

【0021】請求項15の文字列変換装置または文字列処理システムは、文字列変換装置が、変換のために使用する辞書を複数個指定しておき、各辞書の使用時における優先順位を変更することによって、変換のために使用する辞書を実質的に変更するものであることを特徴としている。

【0022】請求項16の文字列変換装置または文字列処理システムは、文字列変換装置が、変換アルゴリズムを変更することによって、変換態様を変更するものであることを特徴としている。

【0023】請求項17の文字列変換方法は、変換態様を複数設けるとともに、文字列処理装置に関する状況に基づいて、変換手段の変換態様を選択するようにしたことを特徴としている。

【0024】請求項18の文字列変換方法は、変換態様を複数設け、入力手段から入力された変換態様選択信号によって、当該変換態様を選択するようにするとともに、文字列処理装置から与えられた変換態様選択信号によっても、変換態様を選択するようにしたことを特徴としている。

【0025】請求項19の記憶媒体は、請求項1ないし請求項18の何れかのシステム、装置または方法をコンピュータを用いて実現するためのプログラムを記憶したものであることを特徴としている。

【0026】この発明における「文字列変換装置」と

は、与えられた文字列を他の文字列（変換文字列）に変換する機能を有する装置をいうものである。与えられる文字列としては、かな文字列、カタカナ文字列、英文文字列、数字文字列、記号文字（括弧や演算子など）列、漢字文字列またはこれらの組み合わせ等がある。変換文字列としては、漢字文字列、かな文字列、カタカナ文字列、英文文字列、数字文字列、記号文字（括弧や演算子など）列等またはこれらの組み合わせ（漢字かな交じり文字列等）がある。文字列変換装置には、かな文字列を入力して漢字まじり文字列に変換するかな漢字変換装置を含むが、これに限定されるものではない。たとえば、手書き文字入力によって入力された漢字文字列を、正しい漢字文字列に変換するような変換装置も含むものである。

【0027】「入力手段」とは、変換を行う対象となる文字列を入力するための手段をいう。実施例では、キーボード4がこれに該当する。音声入力装置、手書き文字入力装置等も含まれる。

【0028】「文字列処理装置」とは、上記の変換文字列を受けて、何らかの処理を行う装置をいう。つまり、文字列変換装置からの変換文字列を必要とする装置をいう。実施例では、ワードプロセッサプログラムによって実現されるワードプロセッサ装置、表計算プログラムによって実現される表計算装置等が該当する。

【0029】「文字列処理装置に関する状況」とは、文字列変換装置との関係において、文字列処理装置がどのような状況にあるかをいう。このような状況を列挙すると以下のとおりである。

【0030】1) 文字列変換装置が変換文字列を出力する先である文字列処理装置として何が用いられているか（ワードプロセッサ装置、表計算装置等）

2) 文字列変換装置が変換文字列を出力する先である文字列処理装置が対象としている文書として何が用いられているか（図8の文書24a、24b等）

3) 上記文書の何れの場合が変換文字列の出力先となっているか（図13のカーソルCK参照）

4) 上記、文字列処理装置、文書、場所が有する属性は何か。ここで属性とは、当該装置、文書、場所が有するあるいは与えられた特性をいう。たとえば、文字列処理装置の実行ファイル名、カスタマイズファイルの内容、ユーザ登録者名等が属性である。また、文書のファイル名、作成日時、作成者、タイトル、現在までに入力された文字列の傾向（カタカナが多い、漢字が多い等）等が属性である。また、図13における、「住所」「氏名」等が場所の属性である。

【0031】「文字列処理装置に対応して変換態様を選択する」とは、個々の文字列処理装置に対応して変換態様を選択する場合だけでなく、文字列処理装置の種類に対応して変換態様を選択する場合も含む概念である。

「文書に対応して」「文書の位置に対応して」について

も同様である。

【0032】「文書」とは、文字列処理装置が処理対象とするファイルをいう。ワードプロセッサ装置であれば文書ファイル、表計算装置であればワークシートファイルがこれに該当する。

【0033】「変換態様選択信号」とは、変換態様を選択するため、文字列処理装置から文字列変換装置に伝達されるデータなどである。実施例では、変換態様名がこれに該当する。

【0034】「文字列処理装置が変換態様選択信号を出力する」とは、文字列処理装置が積極的に与える場合だけでなく、文字列変換装置が積極的に取得する場合も含む概念である。

【0035】「変換アルゴリズム」とは、変換態様を決定する事柄の内、何れの辞書をどのような優先度で用いるかという事を除いた事柄全般を指すものである。つまり、ローマ字／かな変換手段6、文節生成手段10、文節候補選定手段14が、どのように変換処理を行うかということである。実施例では、図9、図11の「入力モード」「複合語変換」「品詞」「動詞・形容詞」等の項目に記載した内容が、変換アルゴリズムを決定している。

【0036】

【発明の効果】請求項1の文字列変換装置および請求項17の文字列変換方法は、変換手段の変換態様を複数設けるとともに、変換文字列を与える文字列処理装置に関する状況に基づいて、変換態様を選択するようにしている。したがって、状況に応じた適切な変換態様によって変換処理を行うことができる。

【0037】請求項2の文字列変換装置は、文字列処理装置に対応して、変換態様を選択するようにしている。したがって、変換文字列を与える文字列処理装置に応じた適切な変換態様によって、変換処理を行うことができる。

【0038】請求項3の文字列変換装置は、文字列処理装置の扱う文書に対応して、変換態様を選択するようにしている。したがって、変換文字列を与える文書に応じた適切な変換態様によって、変換処理を行うことができる。

【0039】請求項4の文字列変換装置は、変換文字列を与える文書中の位置に対応して、変換態様を選択するようにしている。したがって、変換文字列を与える位置に応じた適切な変換態様によって、変換処理を行うことができる。

【0040】請求項5の文字列変換装置は、文字列処理装置に関する状況に基づいて選択される変換態様を、当該状況に対応付けて記憶しておくとともに、変換手段が、状況に対応して記憶された変換態様にしたがって変換を行うようにしている。したがって、状況に対応して記憶された変換態様を読み出すことにより、適切な変換

態様を容易に決定することができる。

【0041】請求項6の文字列変換装置は、文字列処理装置、文書又は文書中の位置に対応付けて変換態様を予め記憶しておくとともに、変換手段が、記憶された変換態様にしたがって変換を行うようにしている。したがって、文字列処理装置、文書又は文書中の位置に対応して記憶された変換態様を読み出すことにより、適切な変換態様を容易に決定することができる。

【0042】請求項7の文字列変換装置は、変換態様を、それぞれの文字列処理装置又は文書に記憶するようにしている。したがって、文字列処理装置や文書等に応じた適切な変換態様を容易に決定できる。

【0043】請求項8の文字列変換装置は、変換態様を、文字列処理装置、文書又は文書中の位置に対応付けたテーブルとして、文字列変換装置に記憶するようにしている。したがって、文字列処理装置や文書等に応じた適切な変換態様を容易に決定できる。

【0044】請求項9の文字列変換装置は、変換態様に変換態様名が付されて文字列変換装置に記憶されており、文字列処理装置または文書に変換態様名が記憶されていることを特徴としている。したがって、文字列処理装置や文書等に応じた適切な変換態様を容易に決定できる。

【0045】請求項10の文字列変換装置は、文字列処理装置に関する状況を、既に当該文字列処理装置に与えた変換文字列に基づいて推論する状況推論手段を設けている。したがって、文字列処理装置や文書に変換態様を記憶しておくことなく、適切な変換態様を選択することができる。

【0046】請求項11の文字列変換装置および請求項18の文字列変換方法は、文字列処理装置から与えられた変換態様選択信号によっても、その変換態様を変更するようにしている。したがって、文字列処理装置から選択信号を与えることにより、自動的に変換態様を切り換えることができる。

【0047】請求項12の文字列処理システムは、文字列変換装置の変換態様を複数設けるとともに、文字列処理装置が、文字列処理装置側の状況に基づいて、文字列変換装置の変換態様を選択するための変換態様選択信号を出力し、文字列変換装置は、文字列処理装置からの変換態様選択信号にしたがって、変換態様を選択するようにしている。したがって、状況に応じた適切な変換態様によって変換処理を行うことができる。

【0048】請求項13の文字列処理システムは、文字列変換装置の変換態様を複数設けるとともに、文字列処理装置が、文字列処理装置側の状況を状況情報として文字列変換装置に出力し、文字列変換装置は、文字列処理装置からの状況情報に基づいて、変換態様を選択するようにしている。したがって、状況に応じた適切な変換態様によって変換処理を行うことができる。

【0049】請求項14の文字列変換装置または文字列処理システムは、変換のために使用する辞書を変更することによって変換態様を変更するようにしている。したがって、状況に応じた適切な辞書を用いて変換処理を行うことができる。

【0050】請求項15の文字列変換装置または文字列処理システムは、変換のために使用する辞書を複数個指定しておき、各辞書の使用時における優先順位を変更することによって、変換のために使用する辞書を実質的に変更するようにしている。したがって、同じ辞書を組み

合わせて使用する場合であっても、より効率のよい変換処理を行うことができる。

【0051】請求項16の文字列変換装置または文字列処理システムは、変換アルゴリズムを変更することによって、変換態様を変更するようにしている。したがって、状況に応じた適切な変換アルゴリズムを用いて変換処理を行うことができる。

【0052】

【発明の実施の形態】図1に、この発明の一実施形態による文字列変換装置の全体構成を示す。この実施形態においては、入力手段としてキーボード4を用いている。また、ローマ字／かな変換手段6、かな文字列記憶部8、文節生成手段10、文節候補記憶部12、文節候補選定手段14、変換態様選択手段16によって、変換手段26が構成されている。さらに、キーボード4、変換手段26、自立語辞書18a・・・18n、付属語辞書20によって、文字列変換装置2が構成されている。

【0053】キーボード4から入力された「文字列」は、ローマ字／かな変換手段6を介して、かな文字列記憶部8に記憶される。ローマ字／かな変換手段6は、入力モードがローマ字モードであれば、キーボード4から入力されたアルファベット文字列を、ローマ字規則に従ってかな文字列に変換して出力する。また、入力モードがかなモードであれば、キーボード4から入力されたかな文字列をそのまま出力する。いずれにしても、かな文字列記憶部8には、「かな文字列」が記憶される。

【0054】文節生成手段10は、自立語辞書18、付属語辞書20を参照して、かな文字列記憶部8に記憶された「かな文字列」から、可能な文節を生成する。文節生成手段10は、生成した文節を文節候補記憶部12に記憶する。文節候補選定手段14は、文節候補記憶部12に記憶された文節を組み合わせることで可能な文節経路を見出す。可能な文節経路が複数存在する場合には、所定の選定処理によって、文節経路（変換文字列候補）を1つに絞る。

【0055】文節候補選定手段14は、この変換文字列候補を文字列処理装置22（ワードプロセッサ等のアプリケーション装置）に出力する。文字列処理装置22は、この変換文字列候補を表示手段（図示せず）において表示させる。また、文節候補選定手段14に変更指令

が与えられると、異なる変換文字列候補を出力する。確定指令が与えられると、その時点の変換文字列候補を確定した変換文字列として出力する。

【0056】変換態様選択手段16は、文字列処理装置22が処理対象としている文書24中に予め記憶されている変換態様を、文字列処理装置22を介して取得する。文書24に記憶されている変換態様は、当該文書24に入力される変換文字列に鑑みて、効率のよい変換を行うことのできる変換態様となっている。変換態様選択手段16は、取得した変換態様にしたがって、ローマ字／かな変換手段6、文節生成手段10、文節候補選定手段14等に対して指示を与える。これにより、文字列変換装置2は、自動的に効率のよい変換態様に変更して変換処理を行うことができる。

【0057】図1の文字列変換装置を、CPUを用いて実現した場合のハードウェア構成を図2に示す。バスライン42には、CPU30、ハードディスク32、ディスプレイ34、メモリ36、フレキシブル・ディスク・コントローラ（FDD）38、キーボード4が接続されている。ハードディスク32には、文字列変換装置のためのプログラム44、ワードプロセッサ（文字列処理装置）のためのプログラム46、自立語辞書である一般辞書18a、医学用語辞書18b、特許用語辞書18c、変換形態の設定内容を記憶した変換形態ファイル25等が記憶されている。これらは、FDD38を介して、フレキシブルディスク（FD）40からインストールしたものである。もちろん、CD-ROM等から取り込んだものであってもよい。また、通信回線を介してダウンロードしたものであってもよい。さらに、ハードディスク32には、ワードプロセッサによって作成された文書24a、24b・・・等も記憶されている。

【0058】メモリ36には、かな文字列を記憶するためのかな文字列記憶部8や文節候補を記憶するための文節候補記憶部12が設けられている。また、付属語辞書20も設けられている。

【0059】図3に、自立語辞書である一般辞書18a、医学用語辞書18b、特許用語辞書18cのデータ構造を示す。なお、自立語とは、その語単独で文節となりうる語をいう。これらの辞書には、変換対象である文字列（読み）に対応する漢字および品詞が記憶されている。一般辞書18aには一般的な用語が記憶されている。また、医学用語辞書18bには医学に関連する用語が記憶されており、特許用語辞書18cには特許に関連する用語が記憶されている。なお、「読み」の欄には、かな文字が記憶されるのが一般的であるが、その一部または全部にアルファベットを含んでいてもよい。また、「漢字」の欄には、漢字だけでなく、かなやアルファベットも記憶されていてもよい。

【0060】図4に、付属語辞書20のデータ構造を示す。付属語とは、その語単独で文節となり得ない語をい

う。付属語辞書20には、付属語と、これに対応して、その品詞、活用形が記憶されている。さらに、各付属語が、どの言葉の後に用いられるかも記憶されている（先行しうる自立語・付属語）。

【0061】図5に、文字列変換プログラム44のフローチャートを示す。このフローチャートに従って、「ほ
うたいがひつようである。」というかな文字列を変換する処理について説明する。ここでは、ワードプロセッサ・プログラム46によって、文書24a（医学に関する論文「緊急医療」であるとする）を作成する場合であるものとして説明を進める。

【0062】まず、ワードプロセッサ・プログラム46が文書24aを開く。これにより、ワードプロセッサ・プログラム46から、文書を開いた旨の情報が伝達される。これに応じて、文書24aに記憶されている変換態様名を取得する（ステップS2）。文書24aには、図8Aに示すように、ファイル名、スタイル、変換態様名、内容等が記憶されている。よって、ここでは、変換態様名として「医学論文」を取得することとなる。なお、文字列変換プログラム44の側が、直接、文書24aから変換態様名を取得してもよいが、ワードプロセッサ・プログラム46から文字列変換プログラム44に送るようにしてもよい。このようにして得られた変換態様名「医学論文」は、メモリ36に記憶される。

【0063】一方、ハードディスク32の変換態様ファイル25には、種々の変換態様が記憶されており、それぞれに変換態様名が付されている。ここでは、変換態様「医学論文」が図9に示すような内容で記憶されており、変換態様「特許論文」が図11に示すような内容で記憶されているものとする。図9の「医学論文」の設定内容は、ユーザが予め医学論文に適する変換態様として設定したものである。

【0064】辞書1、辞書2、辞書3・・・の項目は、変換に用いる辞書の優先度を示している。辞書1、辞書2、辞書3・・・の順に、優先度が与えられる。ここでは、医学用語辞書が最も高い優先度を持って引用され、次に、一般辞書が引用される。入力モードの項目は、キーボード4からの入力モードを、ローマ字モード、かな文字モード、英文文字モードの何れにするのかを示している。ここでは、ローマ字モードと設定されている。複合語変換の項目では、複合語を連文節によって変換するか、単文節によって変換するかを設定している。通常の文章であれば、複数の文節となるので連文節モードが適している。しかし、住所等であれば、名詞の連続した1つの文節であるから、単文節モードが適している。ここでは、連文節モードが指定されている。品詞の項目は、同音異義語が存在した場合に、どの品詞を優先するかを示している。ここでは、名詞を優先するように指定されている。動詞・形容詞の項目は、動詞・形容詞に関して、漢字を優先するかひらがなを優先するかを示してい

る。ここでは、漢字優先が指定されている。

【0065】以後、文字列変換プログラム44は、上記の変換態様「医学論文」にしたがって変換処理を行う。まず、CPU30は、キーボード4から入力されたアルファベット文字列「houtaigahituyoud earu。」をローマ字規則に従って、かな文字列「ほ
うたいがひつようである。」に変換する。さらに、このかな文字列を、メモリ36のかな文字列記憶部8に記憶する（ステップS3）（図6参照）。なお、変換態様として指定された入力モードが「かな文字モード」であれば、キーボード4からのかな文字列をそのまま、文字列記憶部8に記憶する。

【0066】次に、CPU30は、かな文字列記憶部8のかな文字列に付き、先頭のかな文字列から順に、医学用語辞書18b、一般辞書18a、付属語辞書20を検索して文節を生成する（ステップS4）。つまり、可能な文節を全て生成し、メモリ28内の文節候補記憶部12に記憶する。図6に、このようにして文節候補記憶部12に記憶される文節を、かな文字列に対応付けて示す。図中、α1、α2、α3、α4、β1・・・が生成された文節を示している。文節α1～α4は、「ほ」を先頭とする検索文字列に対する漢字（および付属語）である。文節α1は検索文字列が1文字であり、文節α2は2文字、文節α3は4文字、文節α4は5文字である。各長さの検索文字列について、1つの文節のみを候補として記憶している。たとえば、文節α1においては、「保」以外に多数の単語が検索されるが、最も優先度の高い漢字「保」を1つだけ選択している。

【0067】この実施例では、同じ長さの単語についての上記優先度を、以下のようにして決定している。複数の単語のうち、優先度の高い辞書において見出された単語を優先する。ここでは、医学用語辞書に記載されている単語の方が、一般辞書に記載されている単語よりも優先度が高い（図9参照）。また、同じ辞書において複数の単語が見出された場合には、それらの品詞によって優先度を決定する。ここでは、一般名詞が優先される（図9の「品詞」の項目参照）。また、動詞や形容詞の場合に、漢字の単語とかなの単語が見出された場合、図9の「動詞・形容詞」の項目にしたがって、優先度を決定する。ここでは、漢字が優先される。これらによっても、優先度が決定できない場合には、使用頻度によって優先度を決定する。このようにして、最も優先度の高い「保」を1つだけ選択している。他の文節α2、α3、α4についても同様である。

【0068】また、文節β1、β2、β3は、「う」を先頭とする検索文字列に対応する漢字（および付属語）である。上記と同様にして、可能性のある全ての文節が文節候補記憶部12に記憶される。なお、記憶する際には、図7に示すように、辞書より取得した品詞、活用形を併せて記憶する。文節の位置情報、つまり、かな文字

列のどの部分に対応するのかの情報も記憶するが、図7においては省略している。

【0069】以上のようにして、文節の生成および文節候補記憶部12への記憶が終了すると、CPU22は、文節経路の候補を選定する(ステップS5)。つまり、かな文字列に対応付けて、組合せ可能な文節を見出す。たとえば、文節 α 1の「保」に続けることが可能な文節は、文節 β 1~ β 4だけであり、それ以外の文節は続けることができない。このような検討を最後の文節まで行って、可能な文節の組合せ(文節経路と呼ぶ)を見出す。複数の文節経路が見出された場合には、最も優先度の高い文節経路を1つ選定する。

【0070】この実施例では、次のようにして、優先度を決定している。優先度の高い辞書の単語を多く含む文節経路の方を優先する。各文節の長さが長くなるような文節経路の方を優先する。学習によって高い優先度を与えられた文節の切り方を含む文節経路の方を優先する。これらを勘案して、1つの文節経路を選定する。たとえば、「包帯が／必要である。」という変換文字列候補が選定される(／は文節の区切りを示す)。

【0071】次に、この変換文字列候補は、ワードプロセッサ・プログラム46に対して出力される(ステップS6)。ワードプロセッサ・プログラム46は、この変換文字列候補をディスプレイ34に表示する。表示例を図10Aに示す。図において、文節「包帯が」がカーソルCKで囲まれている。これは、現在の処理対象である文節(注目文節と呼ぶ)が「包帯が」であることを示すものである。

【0072】変換文字列候補を出力した後、ユーザからの指令を待つ(ステップS7)。ユーザは、ディスプレイ34に表示された変換文字列候補を見て、種々の指令をキーボード4(マウス等の場合もある)から入力する。

【0073】ステップS7において、注目文節の移動指令が入力されると、CPU30は、注目文節を指令された方向に従って移動させ、カーソルCKの表示も併せて移動させる(ステップS8)。たとえば、図10Aの状態において、注目文節を右に移動させる指令が与えられると、図10Bに示すように、カーソルCKが右に移動し「必要である」が注目文節となる。

【0074】ステップS7において、他候補の指令が与えられると、注目文節「必要である」の自立語、付属語について、自立語辞書8、付属語辞書10から他の候補(次に優先度の高いもの)を選択してくる(ステップS12)。たとえば、「必用である」を選択する。CPU30は、この際に、文節候補記憶部12の「必要である」の部分で、「必用である」に書き換え、品詞や活用形や校正関連情報等も、新たに辞書から取得したものに書き換える。そして、この新たな変換文字列候補を、ワードプロセッサ・プログラムに出力する(ステップS

6)。これにより、ワードプロセッサ・プログラムは、図10Cに示すような表示をディスプレイ34に行う。

【0075】また、ステップS7において、後変換指令が与えられると、注目文節全体を該指令の内容に従って後変換する(ステップS11)。たとえば、カタカナへの後変換指令が与えられると、図に示すように注目文節全体が「ヒツヨウデアル。」に変更される。これに応じて、図7の文節候補記憶部12の内容も上記と同様にして、書き換えられる。ただし、この言葉は、辞書から取得したものではないので(後変換語と呼ぶ)、品詞の欄に、強制的に一般名詞とされる。

【0076】また、ステップS7において、文節区切りの変更指令が与えられると、注目文節を長く(または短く)して(ステップS9)、再び、文節候補記憶部12の記憶内容に基づいて文節経路候補を選定する(ステップS5)。つまり、文節区切り位置の異なる新たな変換文字列候補を生成する。以降の処理は、上記で説明した処理と同様である(ステップS5、S6)。

【0077】以上のような処理を経て、確定指令が入力されると、その時点の変換文字列候補を確定文字列(変換文字列)としてワードプロセッサ・プログラムに出力する(ステップS10)。また、確定した文字列であることを明らかにするため、ディスプレイ34の画面上における表示色を変更するように、ワードプロセッサ・プログラムに指令を与える。

【0078】また、確定指令が与えられて確定文字列を出力した時点で、1つの文が終わっていれば(「。」によって文が終了する)、図7の文節候補記憶部12の内容をクリアする。文の途中で確定指令が出された場合には、文節候補記憶部12の内容はそのまま保持される。つまり、この実施例では、1つの文の全ての文節が確定されるまで、文節候補記憶部12の内容が保持されるようになっている。

【0079】上記に示すように、変換文字列候補が希望する文字列になっていない場合には、注目文節の移動や他候補等の指令を与えて、所望の変換文字列を得るようにしている。しかし、上記のような指令を与えるのは操作が煩雑であるので、できる限り少ない回数の指令で所望の変換文字列が得られることが好ましい。上に示した実施例では、ワードプロセッサ側の状況(どのような属性を持つ文書を扱うかという状況)に基づいて、適切な変換態様を選択するようにしている。

【0080】なお、途中で、処理対象を文書24aから文書24bに変更した場合には、次のような処理がなされる。まず、ステップS1において、ワードプロセッサ・プログラムから、文書が変更された旨の情報が伝達される。これを受けて、文書24bの変換態様の項目から「特許論文」を取得する(図8B参照)。

【0081】一方、ハードディスク32の変換態様フ

イル25には、変換態様「特許論文」として、図11に示すような内容が設定されている。この設定内容は、ユーザが予め特許論文に適する変換態様として設定したものである。辞書1が「特許用語辞書」になっている点が、変換態様「医学論文」と異なる。

【0082】以後、文書24aに対しては、この変換態様「特許論文」が用いられる。たとえば、上記と同じように「ほうたいがひつようである。」を変換すると、最初の変換文字列候補として「包袋が必要である。」が出力される。「包袋が」が選択されるのは、「特許用語辞書」が最も優先度の高い辞書として設定されているからである。これにより、ステップS5の文節経路の候補を選定する際に、「包帯が」よりも「包袋が」が優先される。

【0083】上記のように、ワードプロセッサ・プログラムが対象とする文書を変更するごとに、これに応じて、自動的に適切な変換態様を選択することができる。なお、変換態様の選択は、ユーザが手動で行うことも可能となっている。

【0084】文書に対する変換態様の登録は、ユーザが行う。たとえば、文書をハードディスクに記録する際に用いられていた変換態様を、当該文書の変換態様として記憶すればよい。これにより、次回以降、当該文書が開かれた場合には、この変換態様が用いられる。

【0085】なお、上記実施例では、用いる辞書の組合せを変更することによって辞書を変更しているが、同じ辞書を組み合わせて、その優先度を変更することによって、実質的に辞書を変更するようにしてもよい。

【0086】また、辞書の変更ではなく、複合語変換、品詞等の変換アルゴリズムに関する項目を変更することによって、変換態様を変更するようにしてもよい。さらに、辞書および変換アルゴリズムの双方を変更するようにしてもよい。

【0087】たとえば、ワードプロセッサによって住所録を作成する場合には、図12に示すように、複合語変換を「単文節」とし、住所録入力に適した辞書を指定することが有効であろう。単文節を指定すれば、付属語辞書は参照されず、自立語のみによって変換が行われるので、住所、氏名等を効率よく変換できる。なお、この実施例では、辞書の組み合わせ及び優先度を辞書セットとして記憶するファイルを用意している（図12B）。変更態様の辞書の項目では、この辞書セットの名称「住所録用辞書セット」を指定することにより、設定を行っている。

【0088】上記各実施例では、文書ごとに変換態様を変更するようにしているが、文書内の位置に応じて変換態様を変更するようにしてもよい。このような実施例における画面表示を図13に示す。この実施例では、文書処理装置としてデータベース装置を用い、「見込み客リスト」を作成する場合を示す。この「見込み客リスト」

のデータ構造の定義ファイルを図14に示す。この図に示すように、各フィールド「住所」「氏名」「商品名」・・・に対して、それぞれ、変換態様「住所入力」「氏名入力」「商品名入力」・・・が記憶されている。変換態様「住所入力」は、住所を入力するのに適した変換態様である。また、「氏名入力」「商品名入力」は、それぞれ、氏名、商品名を入力するのに適した変換態様である。

【0089】この実施例では、入力位置を示すカーソルが、異なるフィールドに移動すると、データベース・プログラムからその旨が伝達される（図5、ステップS1に対応）。これを受けて、文字列変換装置は、カーソルの位置するフィールドの変換態様を取得する（図5、ステップS2に対応）。したがって、カーソルの位置という文字列処理装置（データベース装置）側の状況によって、適切な変換態様が自動的に選択される。たとえば、図13に示す位置にカーソルCKがある場合には、備考の入力に適した変換態様が選択される。これにより、効率的な、文字列変換処理を行うことができる。たとえば、変換態様「氏名入力」の内容として、辞書を「人名辞書」とし、「単文節」を指定しておくことにより、氏名フィールドへの入力を効率よく行える。「しろいゆき」の変換候補として最初に「白い雪」が提示されることなく、「白井由紀」と提示される。

【0090】図15に、他の実施例における画面表示を示す。この実施例では、文書処理装置としてワードプロセッサ装置を用いている。ここでは、予め用意され変更不可能な文字列が挿入された領域と、文字列を入力可能な領域C1、C2、C3、C4とを備えた文書を対象としている。各領域C1、C2、C3、C4に対応して、変換態様が記憶されており、カーソルの位置に応じて変換態様が選択される。領域C1、C2においては、商品名の入力に適した変換態様が選択され、領域C3、C4においては、半角英数字の入力モードに変換態様が選択される。なお、領域C3、C4においては、半角英数字の入力モードとする代わりに、文字列変換装置の動作を停止させ、キーボードからの入力文字列をそのままワードプロセッサに与えるようにしてもよい。

【0091】なお、上記の各実施例では、変換態様の名称を文字列処理装置側に記憶し、変換態様の内容を文字列変換装置側に記憶するようにしている。しかし、変換態様の内容が簡単である場合（たとえば辞書の指定だけの場合）には、その内容を文字列処理装置側に記憶するようにしてもよい。

【0092】さらに、上記各実施例では、文書や文書内のカーソルの位置に基づいて、変換態様を選択するようにしている。しかし、文字列変換装置からの出力を受ける文字列処理装置ごとに、変換態様を選択するようにしてもよい。これは、特に、文字列処理装置が特定の業務に特化したものである場合に有効である。たとえば、医

療事務プログラムに対しては、医療事務に適した変換態様を記憶しておいて使用し、建築業見積プログラムに対しては、これに適した変換態様を記憶して使用するようにすればよい。

【0093】上記各実施例では、文字列処理装置、文書または文書内の位置の何れかに、変換態様名を記憶するようにしている。しかし、これらの2以上に変換態様名を記憶するようにしてもよい。この場合、文書内の位置に記憶された変換態様名を優先して用いる。文書内の位置に変換態様名が記憶されていなければ、文書に記憶された変換態様名を用い、さらに、これがなければ、文字列処理装置に記憶された変換態様名を用いるようにする。このようにすることにより、詳細な設定がなされていない文書に対しても、詳細な設定がなされている文書に対しても適切な変換態様を選択することができる。

【0094】また、図16に示すように、変換態様名を文字列変換装置側に記憶するようにしてもよい。図16Aは、文字列処理装置のアプリケーションソフトウェアと、変換態様とを対応づけて記憶したテーブルである。図16Bは、ワードプロセッサのファイル（文書）と、変換態様とを対応づけて記憶したテーブルである。図16Cは、各アプリケーションごとに同様のものが作成される。図16Dは、ファイル内の場所と、変換態様とを対応づけて記憶したテーブルである。図16Eは、各ファイル（文書）ごとに作成される。図16に示すように、変換態様名を文字列変換装置側に記憶すれば、文字列処理装置側に変換態様名を記憶しなくともよい。図16の実施例においても、図16A、図16B、図16Cの何れか1つだけを記憶するだけでもよく、2以上を記憶するようにしてもよい。

【0095】また、上記の各実施例では、予め変換態様の名称を文字列処理装置または文字列変換装置に記憶している。しかし、文字列処理装置からは状況のみを文字列変換装置に送り、文字列変換装置が当該状況に基づいて、変換態様を決定するようにしてもよい。たとえば、図13の実施例において、文字列変換装置は、カーソルの位置するフィールドの情報（つまり、カーソルが現在のどのフィールドに位置するかの情報）のみを受け取る。文字列変換装置は、この情報（たとえば「住所」）を受け取り、当該情報に基づいて、最も類似した名称の付された変換態様を選択する。このようにすれば、図14に示すように、各フィールドごとに、変換態様を定義しておく必要がない。なお、カーソルの前の文字列の品詞等の状況によって、変換態様を選択するようにしてもよい。

【0096】また、上記各実施例では、各機能をCPUを用いて実現しているが、その一部または全部をハードウェアロジックによって実現してもよい。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施例による文字列変換装置の全体構成を示す図である。

【図2】図1の文字列変換装置をCPU30を用いて実現した場合のハードウェア構成を示す図である。

【図3】自立語辞書の構成を示す図である。

10 【図4】付属語辞書の構成を示す図である。

【図5】文字列変換処理を示すフローチャートである。

【図6】かな文字を変換する際の、文節の生成を説明するための図である。

【図7】文節候補記憶部12の記憶内容を示す図である。

【図8】文書24a、24bの構成を示す図である。

【図9】変換態様「医学論文」の設定内容を示す図である。

20 【図10】変換処理における、修正の状況を示す図である。

【図11】変換態様「特許論文」の設定内容を示す図である。

【図12】変換態様「住所録」の設定内容を示す図である。

【図13】データベース・プログラムを用いた場合の実施例における画面表示を示す図である。

【図14】図13の表の定義データを示す図である。

【図15】ワードプロセッサ・プログラムを用いた他の実施例における画面表示を示す図である。

30 【図16】変換態様名を文字列変換装置側に記憶した場合の実施例を示す図である。

【符号の説明】

2・・・文字列変換装置

4・・・キーボード

6・・・ローマ字／かな変換手段

8・・・かな文字列記憶部

10・・・文節生成手段

12・・・文節候補記憶部

14・・・文節候補選定手段

40 16・・・変換態様選択手段

18・・・自立語辞書

20・・・付属語辞書

22・・・文字列処理装置

24・・・文書



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **09179859 A**(43) Date of publication of application: **11.07.97**

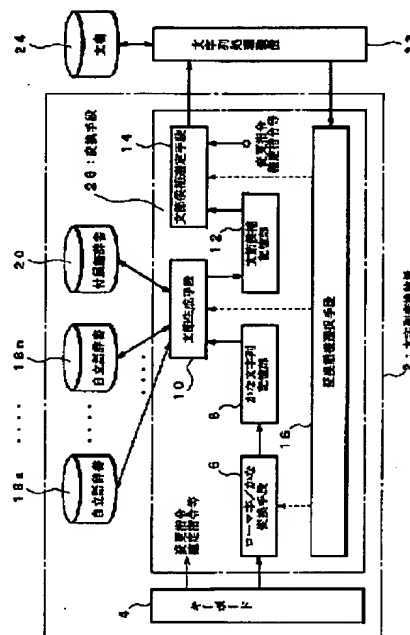
(51) Int. Cl.

G06F 17/22(21) Application number: **07338561**(71) Applicant: **JUST SYST CORP**(22) Date of filing: **26.12.95**(72) Inventor: **AMOCHI HIROKI****(54) DEVICE AND METHOD FOR CHARACTER STRING CONVERSION****(57) Abstract:**

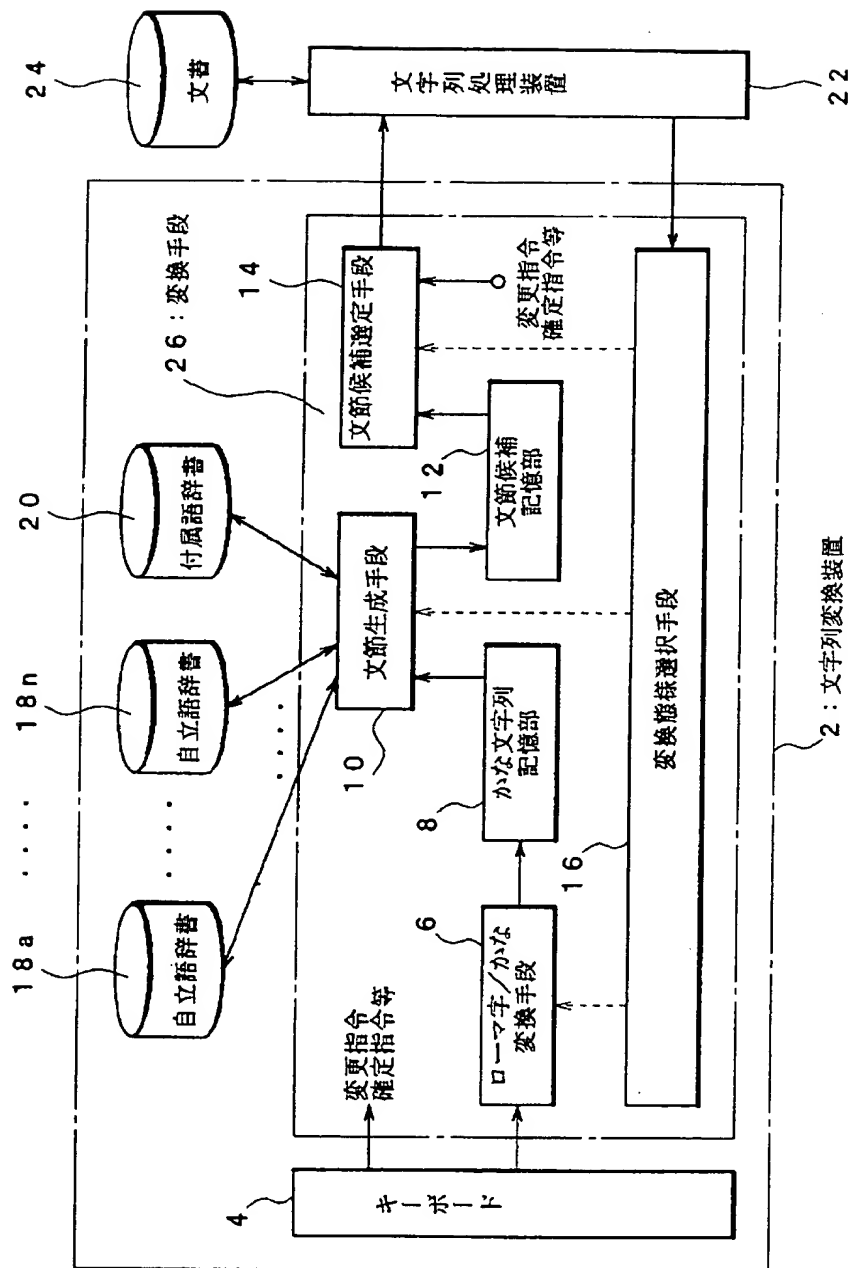
PROBLEM TO BE SOLVED: To make it possible to automatically switch a conversion mode.

SOLUTION: Through conversion processing, a conversion mode selecting means 16 acquires a conversion mode previously stored in a document 24 to be processed by a character string processor 22 through the character string processor 22. The conversion mode stored in the document 24 is a conversion mode which enables efficient conversion in consideration of a converted character string inputted to the document 24. The conversion mode selecting means 16 sends indications to a Roman character/KANA(Japanese syllabary) converting means 6, a paragraph generating means 10, a paragraph candidate selecting means 14, etc., according to the obtained conversion mode. Consequently, the character string conversion device 2 automatically changes the mode to an efficient conversion mode and performs conversion processing.

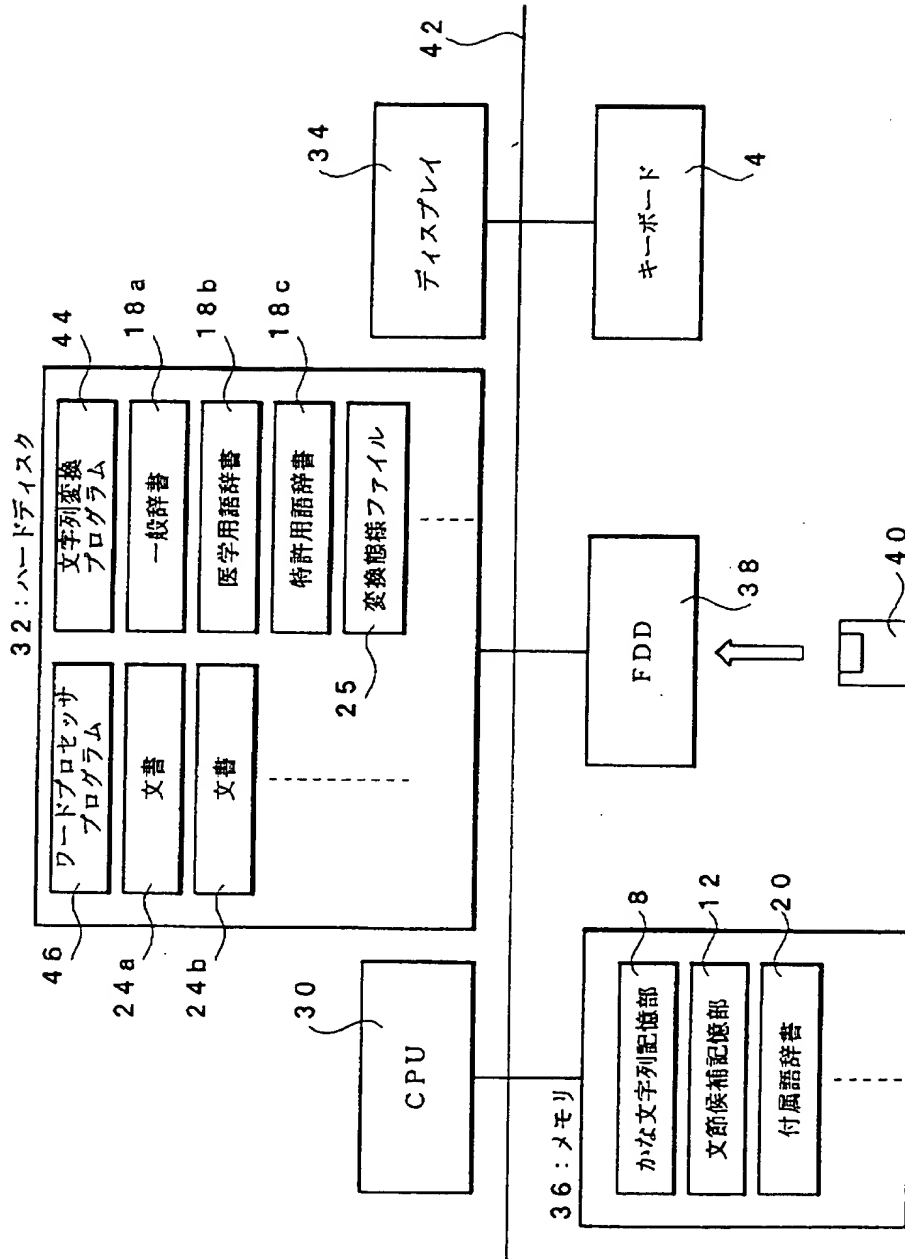
COPYRIGHT: (C)1997,JPO



【図1】



【図2】



【図3】

A

一般辞書（自立語）18aの構成

読み	漢字	品詞
た	田	一般名詞
たべ	食べ	一般動詞

B

医学用語辞書（自立後辞書）18bの構成

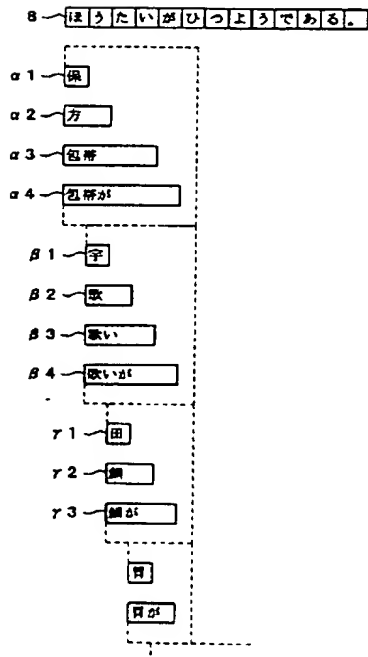
読み	漢字	品詞
ほうたい	包帯	一般名詞

C

特許用語辞書（自立後辞書）18cの構成

読み	漢字	品詞
ほうたい	包帯	一般名詞

【図6】



【図4】

付属語辞書20の構成

付属語	品詞	活用形	先行しうる自立語・付属語
の	格助詞		(自立語) 一般名詞、固有名詞・・・ (付属語) 「と」「から」・・・
は	係助詞		(自立語) 一般名詞、固有名詞・・・ (付属語) 「の」「と」・・・
い		連体形	

【図7】

文節候補記憶部12の記憶内容

文節	品詞	活用形
保	一般名詞	
方	一般名詞	
包帯	一般名詞	
包帯が	一般名詞、格助詞	
字	一般名詞	
必要	一般名詞	

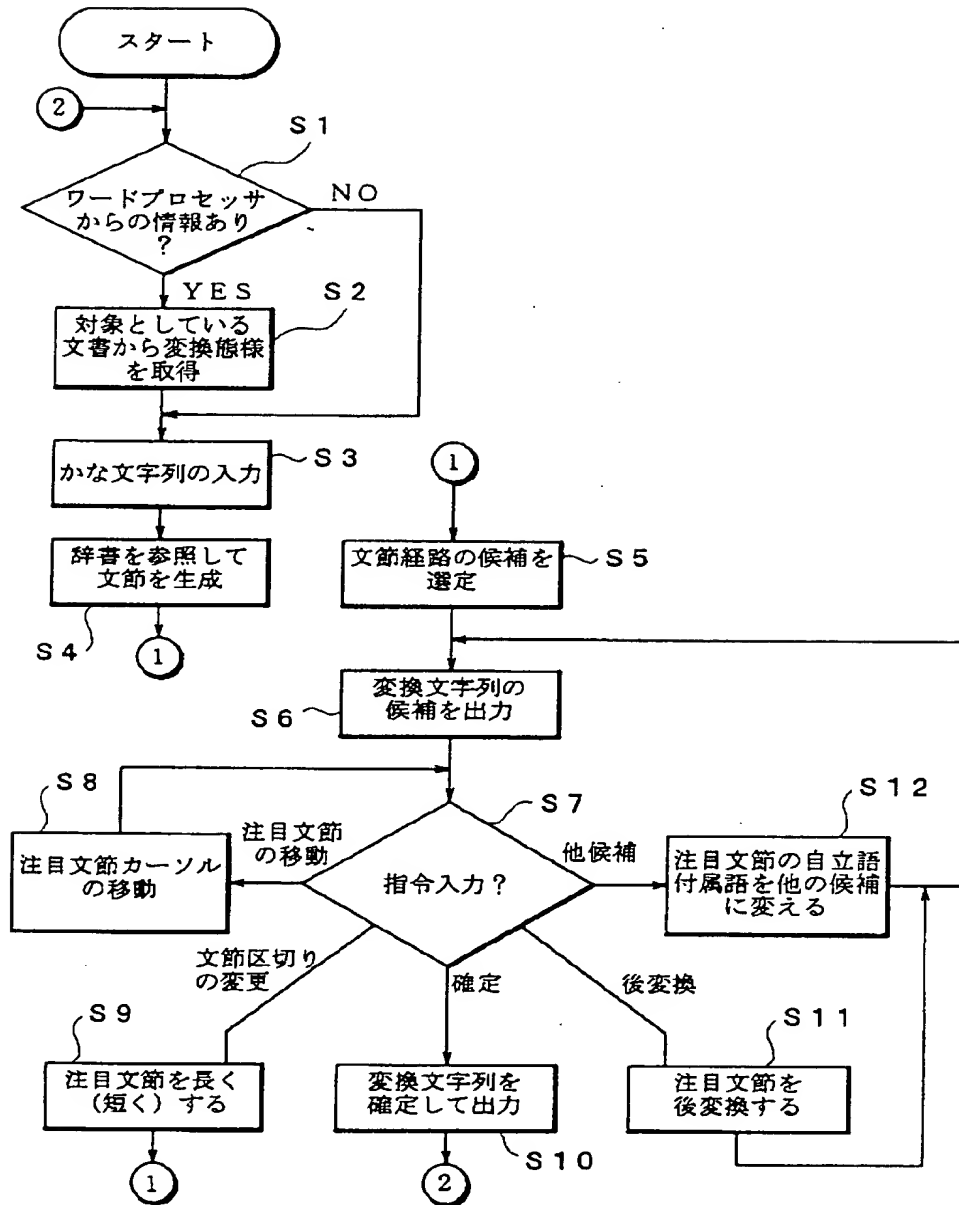
【図8】

文書24aの構成

文書24bの構成

ファイル名	緊急医療. J BW	知的財産立国. J BW
スタイル	用紙=A4, 上マージン=25.3	用紙=A4, 上マージン=29.0
変換種別	医学論文	特許論文
内容	この論文は緊急 医療に関する ものであって...	我が国の富強は 知的財産である といえよう。...

【図5】



【图 9】

辞書1	医学用語辞書
辞書2	一般辞書
辞書3	
⋮	
⋮	
入力モード	ローマ字モード
複合語変換	渡文郎
品詞	一般名詞優先
動詞・形容詞	漢字優先
⋮	⋮
⋮	⋮

【図 10】

A 包帯が必要である。
OK

B 包帯が必要である。
OK

C 包帯が必要である。
OK

D 包帯がヒツヨウデアル。
OK

【图 1-1】

辞書 1	特許用語辞書
辞書 2	一般辞書
辞書 3	
⋮	
⋮	
入力モード	ローマ字モード
漢合語変換	漢文郎
品詞	一般名詞優先
動詞・形容詞	漢字優先
⋮	⋮
⋮	⋮

【図 12】

A

評書	住所録用辞書セット
入力モード	ローマ字モード
複合辞変換	単文節
・	・
・	・
・	・

8

優先度	評書
1	住所用評書
2	氏名用評書
3	一般評書
・	・

【图 13】

見込み客リスト

住所	氏名	商品名	備考
聴島市…	白井由紀	冷蔵庫	新居改築
大阪市…	田中花子	テレビ	県外の大学へ
東京都…	佐藤太郎	パソコン	CK
…	…	…	…

【図 14】

見込み客リストの定義データ

フィールド名	長さ	変換種別	
住所	30	住所入力	
氏名	10	氏名入力	
商品名	5	商品名入力	

【図 15】

我が社の [C1] を紹介
させていただきます。 [C2]
は、 [C3] 年 [C4] 月に新製品
として販売されたものです。

【図16】

A

B

C

アプリケーション	変換目標
ワープロ 「一太郎」	標準
表計算 「三四郎」	表計算
データベース 「五郎」	データベース
・	・
・	・

ワープロ「一太郎」に関して

ファイル	変換目標
緊急医療. J B W	医学論文
知的財産立国. J B W	特許論文
住所録. J B W	住所録
・	・
・	・

住所録. J B Wに関して

場所	変換目標
住所	住所入力
氏名	氏名入力
商品名	商品名入力
備考	履歴